

市民とともに創る、人とまちを未来へとつなぎ・はばたく庁舎 ～市民のしあわせと健康を増進する拠点づくり・風を取り込む翼の屋根～

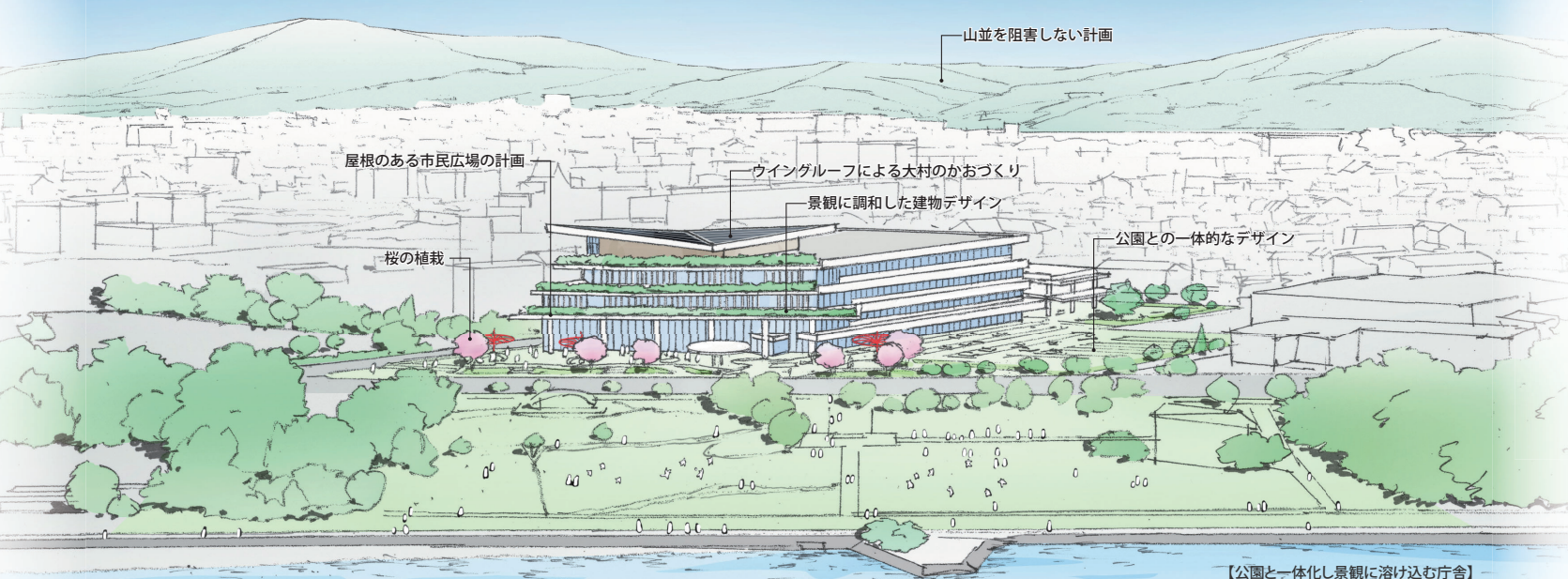
テーマ1 「基本計画」に基づく新庁舎を実現するための基本的な設計の考え方

市民とともに実現する「しあわせ実感都市 大村」

市民一人ひとりが、大村市をより豊かにより発展させる原動力として生き活きと活躍できるよう、子育て支援から高齢者ケアまで、全ての人の健康で快適な暮らしを支えるこれからの大村市にふさわしい庁舎を市民とともに創造します。

6つの視点を礎に大村市にふさわしい庁舎を実現します

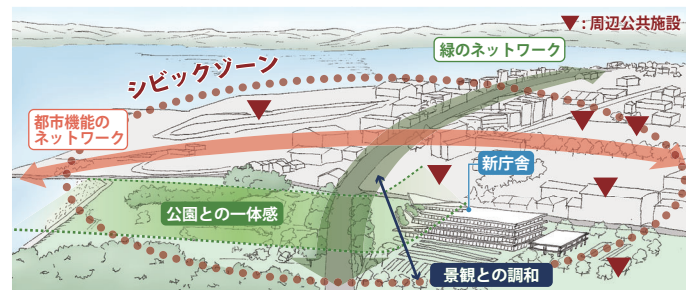
- A 市民を守る** 周辺の公共施設と連携し、フェーズフリーな免震庁舎による広域防災拠点の構築
- B 市民に寄り添う** ユニバーサルデザインの追求やワークショップにより市民とともに作る快適で長く愛される市民フレンドリーな庁舎
- C 職員に寄り添う** DX化による多様な働き方を包容するフレキシブルなオフィス計画により、元気に活躍できるウェルネス庁舎
- D 気候風土を読み解く** 大村の自然エネルギーをフル活用して環境負荷を低減するカーボンレス庁舎
- E 合理性・機能性の追求** 低層でシンプルかつ、合理的な計画によるコンパクト化で実現するローコスト庁舎
- F まちをつなぐ** 長崎の玄関としての顔づくりを行い、公園との一体的計画と景観・防災の連携による新たなシビックゾーンの創造



大村らしいデザインによる長崎の玄関としての顔づくり

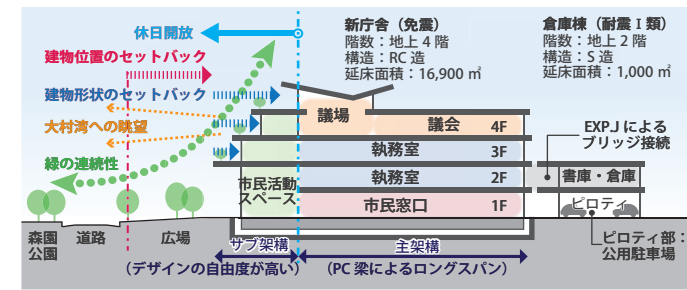
- 重なるプレート** 大村の歴史や生活文化の重なりを表す積層したプレートが、地層のようにしっかりと地域に根を下ろす様を表現
- 公園と一体感のあるデザイン** 景観に溶け込む階段状にセットバックしたデザインによる、森園公園との一体感を創造
- 風を取り込むウィングルーフ** 風を取り込む環境装置となる特徴的な翼の屋根が、大村市の未来への羽ばたきを表現
- 夕日を映すルーバー** 大村市の美しい夕日を映し込む壁面デザインにより、サンセット通りに相応しい景観を創造

1. 公園との一体整備でまちとつながる庁舎



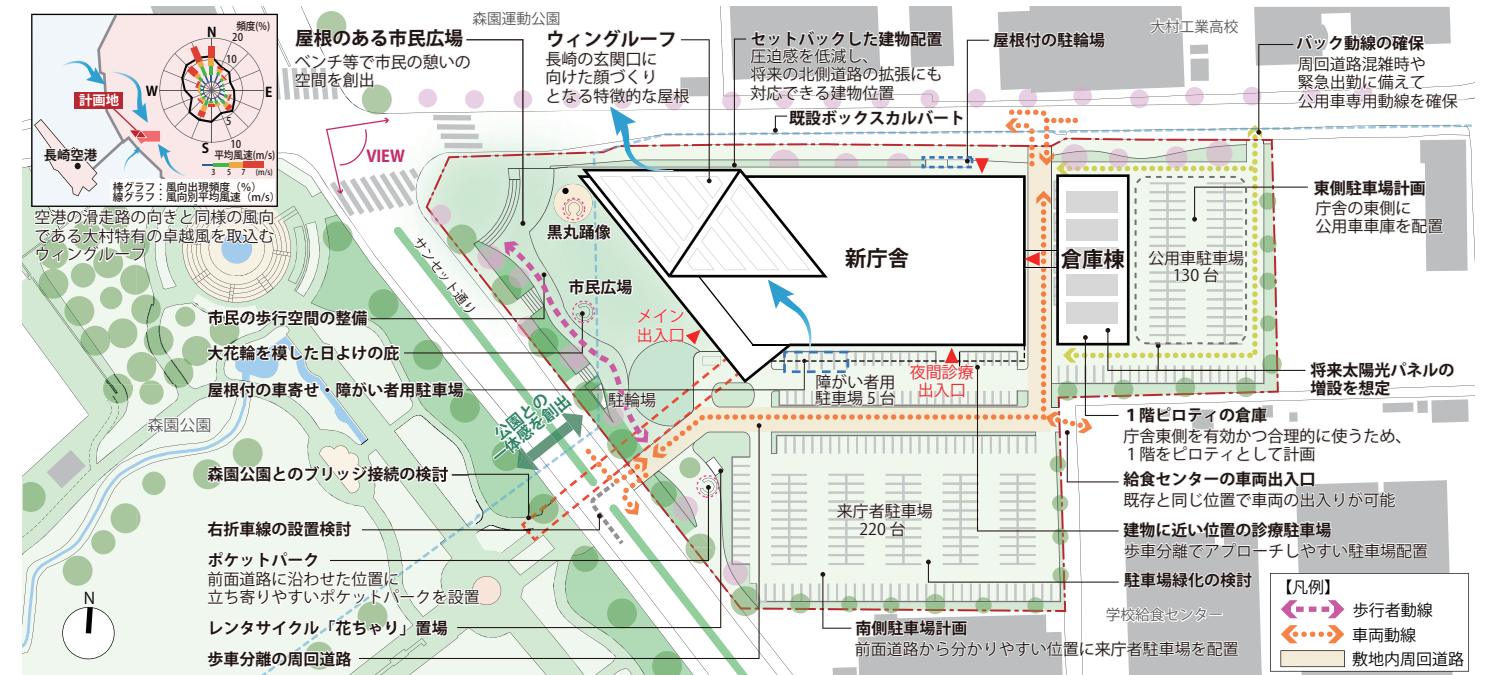
- **公園との連携**: 外部空間はみどりが連続する植栽や市民の憩いの空間を配置し、森園公園を補完する機能(カフェ・キッチンカー乗入・授乳室・展示スペース・庇下休憩スペース等)を庁舎に計画することにより、敷地全体が公園の中にあるように感じる庁舎を創造します。
- **景観の連携**: 建物周辺の広場・歩行空間の計画、サンセット通りに並行な建物形状、階段状の緑のバルコニーにより圧迫感を低減して景観に調和する庁舎を創造します。
- **防災の連携**: 防災活動の拠点として周辺施設との具体的な連携を想定した計画とし、これまでに無い「災害に強い大村」を実現します。[テーマ4参照]
- **大村を感じるデザイン**: 黒丸踊りの大花輪をモチーフにした屋根付きの休憩スペースや地場産木材を内装材や家具に用いる等、大村を感じる計画を行います。

2. 低層でシンプルなコンパクト庁舎



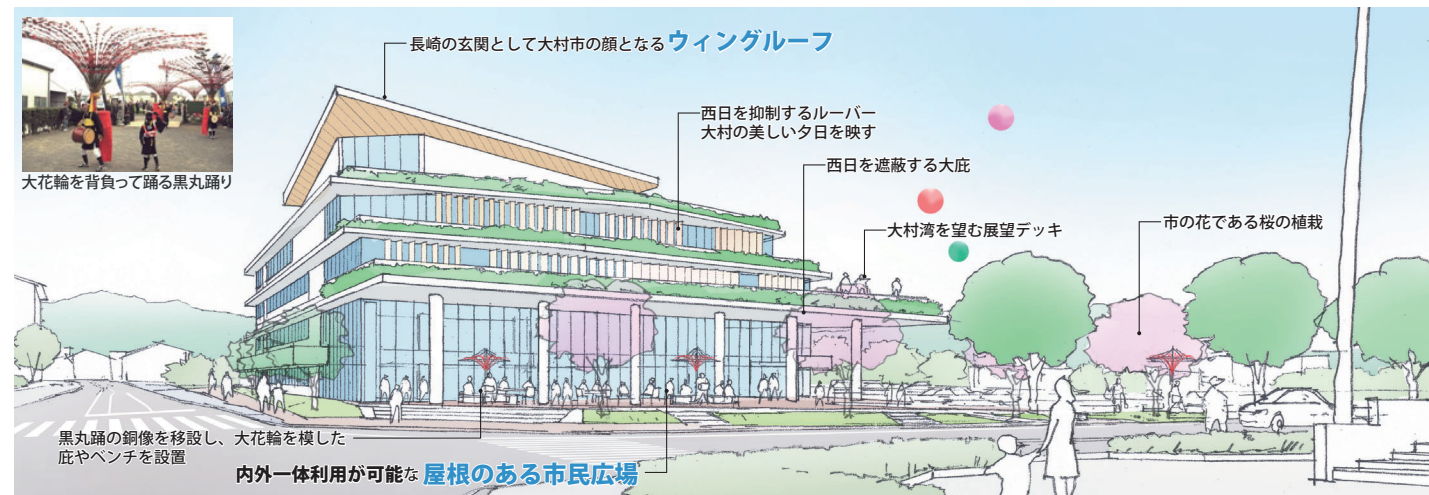
- **景観配慮とコンパクト化のための4階建庁舎**: 空港から望む美しい山並みを阻害することなく、機能を担保したまま面積削減が可能な4階建ての低層庁舎とします。
- **すべて1階に集約した市民窓口**: 市民窓口はすべて1階に配置し、ワンフロアで市民手続きが完結できる計画とします。2・3階は執務エリア、4階は議会エリアを配置しシンプルで分かりやすい階構成とします。
- **合理的な構造形式(RC柱・PC梁)**: プランに応じたメリハリのある架構形式とすることで堅牢・安全で使いやすい建物とし、合理的に構造躯体量を削減します。[テーマ4参照]
- **ピロティ式倉庫棟によるコスト低減**: 倉庫棟は2階で新庁舎と接続し、1階は屋根付き公用車駐車場として利便性が高く合理的な計画とします。耐震1類の構造計画により、建物安全性確保と適正なコスト配分を両立します。

3. 人とまちがつながる、景観や環境に配慮した配置計画



- **長崎の玄関口へひらく建物の北側配置**: 北西角の交差点と建物の関係性を大切に建物配置とすることで、大村市のシンボルとしてふさわしい計画とします。[右図A案]
- **環境負荷の少ない東西軸配置**: 西日を防ぎ、柔らかな自然光を取り入れる環境負荷の少ない建物配置とします。
- **屋根付きの市民広場**: 北西角に市民広場を配置します。屋根付きの広場は内外一体利用も可能とし、日常から災害時まで様々な利用が可能な使いやすい空間とします。
- **歩車分離を実現する敷地内周回道路**: 車両動線は庁舎外周部に分離配置し、安全な歩行者アプローチを実現します。
- **わかりやすさに配慮した道路寄りの駐車場配置**: サンセット通りから視認しやすい位置に来庁者駐車場を配置します。さらなる利用勝手向上のため、右折レーンの設置検討にも協力・助言します。
- **景観に調和するセットバック配置**: 道路から建物との離隔を十分確保してまちなみへの圧迫感を低減し、歩行者動線を整備することで、ゆたかな市民空間を提供します。

配置計画	A案(北側配置)	B案(南側配置)	C案(東側配置)
交差点への顔出し	○ 北西角に建物が近い	△ 北西角から建物が遠い	△ 北西角から建物が遠い
西日低減	○ 建物を東西軸方向に配置	○ 建物を南北軸方向に配置	○ 建物を南北軸方向に配置
広場と建物の一体利用	○ 前面広場と連続性がある	× 敷地内道路により前面広場と分断	○ 前面広場とやや連続性がある
歩行者アクセス	○ 両方の前面道路に近い	△ 西側道路のみ近い	○ 西側道路から庁舎まで近い
駐車場の分かりやすさ	○ 北側道路に面した配置	○ 北側道路に面した配置	○ 西側道路に面した配置
倉庫棟との連携	○ 新庁舎に隣接する	△ 駐車場により分断	○ 新庁舎に隣接する



【長崎の玄関として大村市のシンボルとなるウィングルーフ】

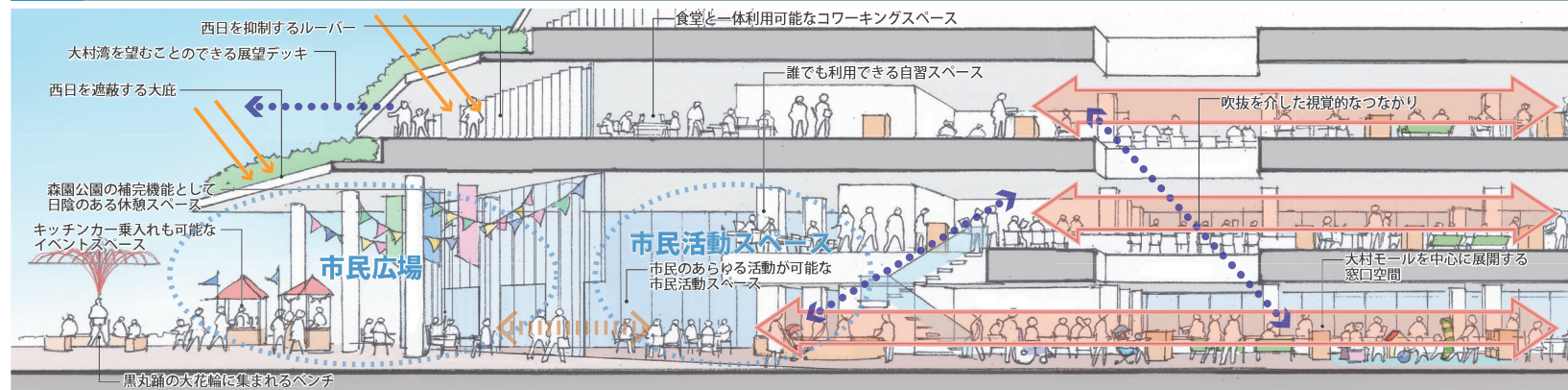


【大村湾を望む展望デッキのイメージ】



子育て世代から高齢者まで全ての人が利用しやすい市民フレンドリーな庁舎

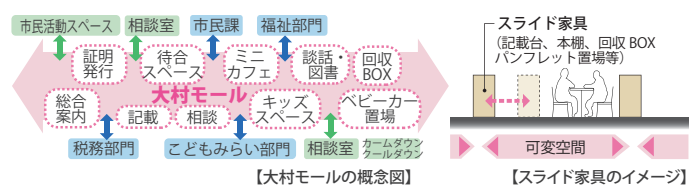
テーマ2 「基本計画」の基本方針「市民サービスの向上につながる庁舎」の実現に向けた設計の考え方



1. 様々なサービスを集約した大村モール

●見通しのいい中通路型の窓口配置: 窓口は見通しがよく分かりやすい中通路型の計画とします。面積効率が高く庁舎コンパクト化にも寄与し、必要な窓口長さを確保します。

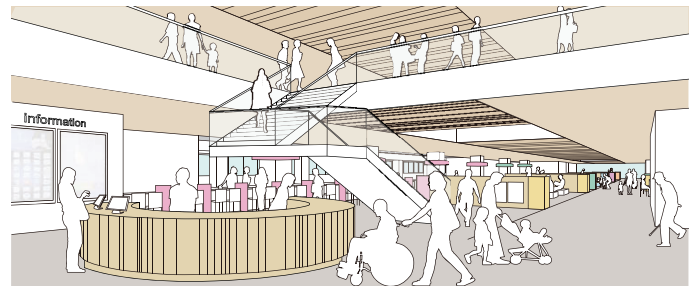
●スライド家具による市民のリビング「大村モール」: 総合案内や証明交付専用窓口、記載台、待合スペース、キッズ・図書コーナー、相談スペースなど、市民に寄り添い一人ひとりのニーズに合った様々なサービスが展開できる、市民のリビングとなる可変空間(大村モール)を計画します。



2. いつでも開かれた市民スペース

●休日解放が容易なシンプルなセキュリティライン: 市民活動の場となる市民スペースや展望ロビーは、森園公園や大村湾への眺望のある西側に集約配置し、時間外や休日開放が容易なセキュリティ計画とします。

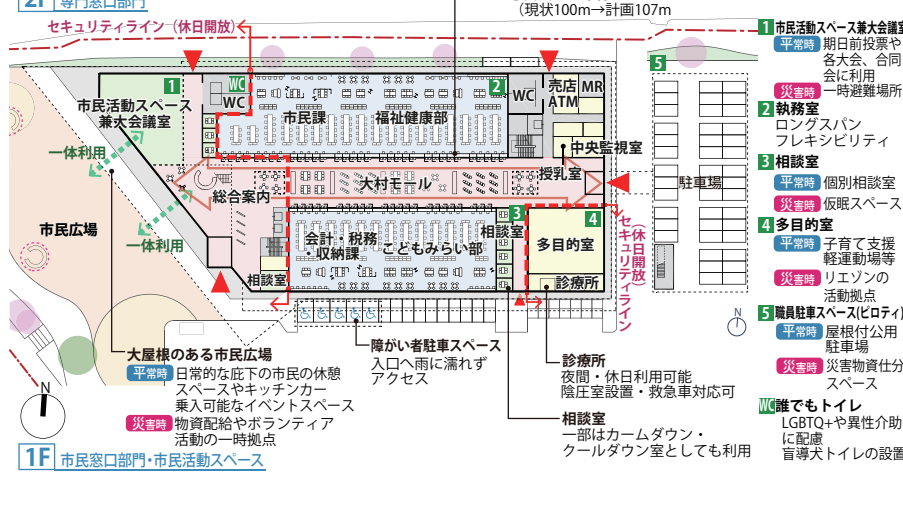
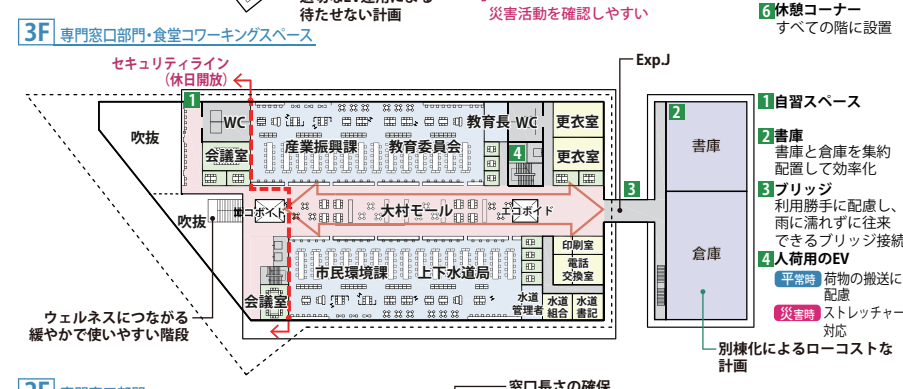
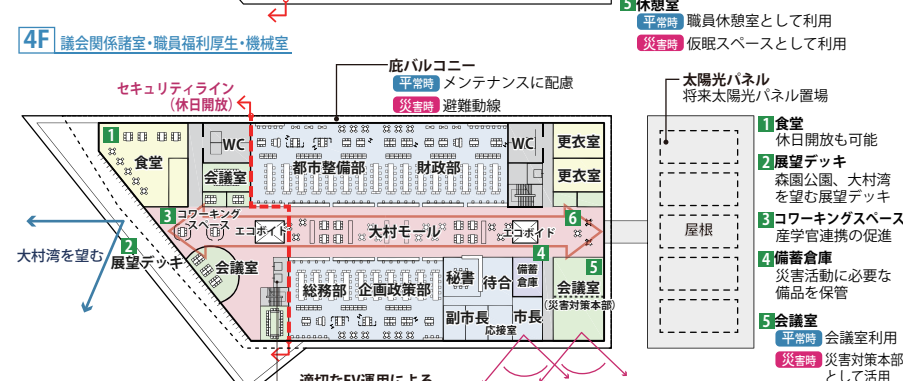
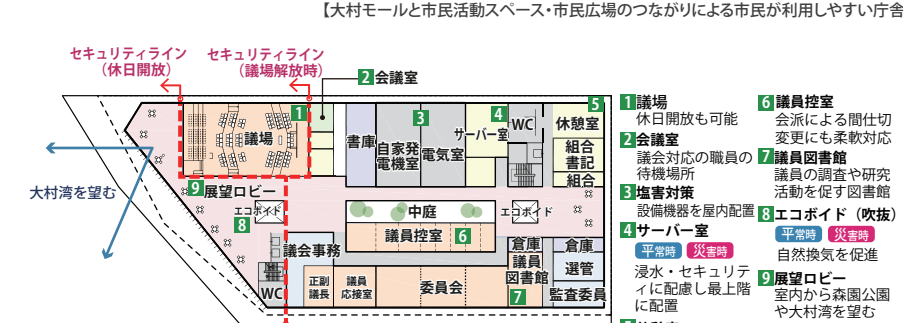
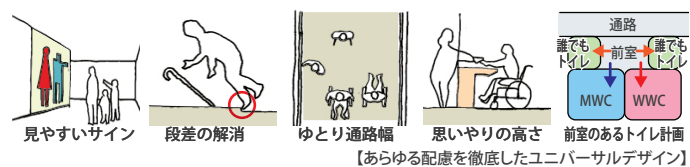
●市民に広く開かれた創造の場: 会議室や食堂、コワーキングスペースも休日開放可能な計画とし、あらゆる施設が市民創作活動に有効に活用できる計画とします。



3. すべての市民にフレンドリーな庁舎

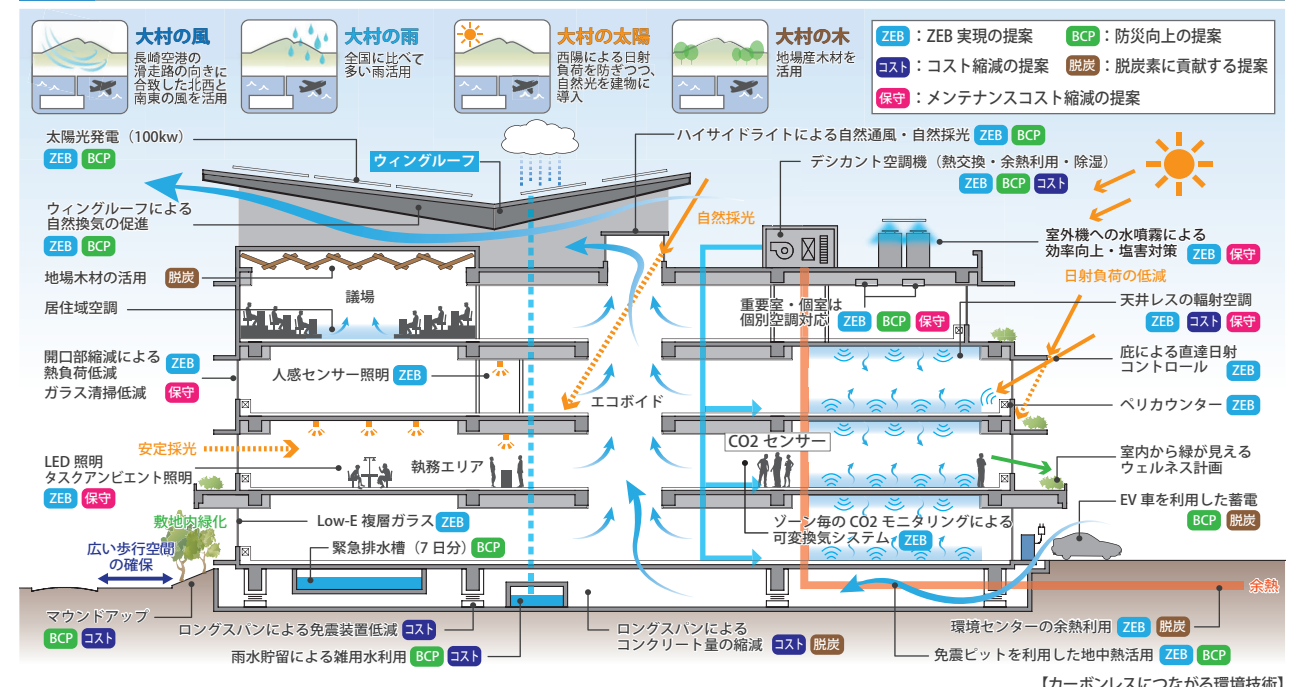
●子育て世代から高齢者まで利用しやすい計画: ベビーカーや車いす利用者・高齢者も、ストレス無くあらゆる場所へ移動し利用できる、広い廊下や段差の解消、幅広で使いやすい高さのカウンターなど、ゆとりある施設計画とします。

●徹底したユニバーサルデザインの追求: すべての人が等しく利用でき、外国人やLGBTQ+にも配慮した計画を徹底します。ワークショップ等で利用者の声を重視しながらつくりあげるインクルーシブな計画とします。



大村の自然エネルギーを活用し環境負荷を低減するカーボンレス庁舎

テーマ3 「基本計画」の基本方針「人や環境にやさしい庁舎」の実現に向けた設計の考え方



1. 大村の自然エネルギーをフル活用

●風を取り込むウィングルーフ: 大村市特有の卓越風の風向に合わせた特徴的な屋根を設置します。大村の風を最大限活用し、建物中央に配置したエコボイドにより自然通風を促進する計画とします。

●積極的な自然採光による明るい庁舎: ハイサイドライトや中庭、エコボイドを利用して、建物中央部までやわらかい光が届く明るい計画とします。

2. 省エネを加速する最適な環境技術の導入

●日射負荷を低減する東西軸の建物形状: 東西の壁面積を小さくして建物への日射負荷を最小限にします。

●庇バルコニーと垂直ルーバーによる日射コントロール: 太陽高度や向きに応じて庇バルコニー出幅や垂直ルーバー角度を決定し、建物内部への直達日射をコントロールします。

●最適な空調システム: 不快な気流感や温度むらを抑えながら、搬送動力を低減した省エネルギーな空調システムである床吹き出し+天井放射空調とします。個室や会議室、時間外対応の室(診療所等)は個別空調システムとします。

●感染症にも配慮した換気システム: ゾーン毎のCO2モニタリングによる可変換気システムで、省エネルギーと感染症対策を両立します。外部に面する診療所には陰圧の消毒室も計画し、救急車の横づけ対応も想定した計画とします。

3. 2050年を見据えた人にやさしいゼロカーボン庁舎

●ZEB Readyを確実に達成: 環境性と経済性のバランスを考慮し、費用対効果に優れた環境技術を導入することで無理なくZEB Readyを達成する計画とします。

●ゼロカーボン庁舎に向けた段階的な備え: BEMSを用いた運用改善による省エネ化や、将来の高効率機器・創エネ技術の更新により、2050年にゼロカーボン庁舎を達成します。

●建物建設から解体に要するあらゆるCO2排出削減: 建物躯体量や仕上の合理化等、エンボディドカーボン削減を意識した計画を行います。

●地域で達成するカーボンニュートラル: 将来環境センターの余熱を除湿(デシカント空調機)や床暖房に活用可能とし、高効率な顕熱分離空調により、人にやさしい更なる省エネ化を実現します。

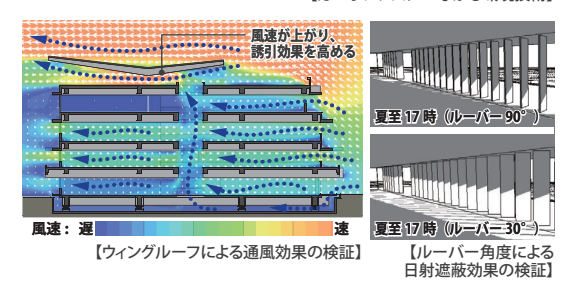
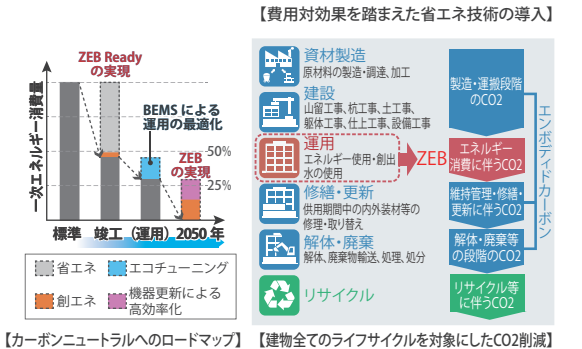
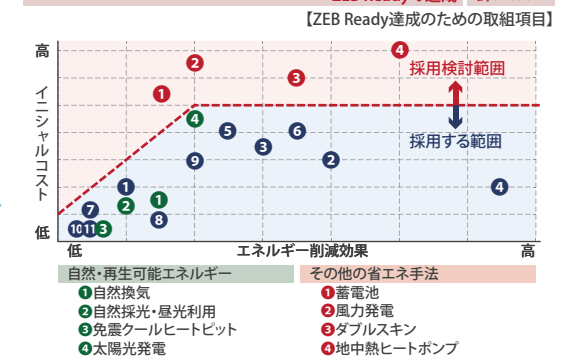
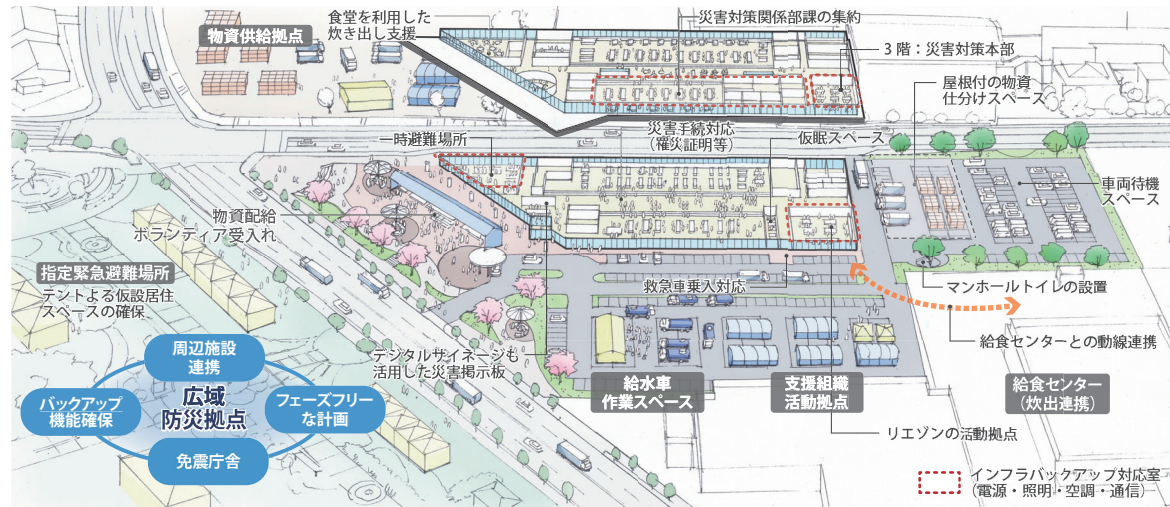


Table with 2 columns: '省エネルギー取組項目' (Energy-saving measures) and '省エネ率' (Energy saving rate). Lists items like 'Low-e複層ガラス' (2.0%) and '外壁の高断熱化' (8.0%). Total ZEB Ready achievement is 52.0%.



フェーズフリーな免震庁舎による広域防災拠点の構築

テーマ4 「基本計画」の基本方針「市民の安全・安心を支える庁舎」の実現に向けた設計の考え方



1. 周辺施設との連携による広域防災拠点

- 防災シビックゾーンの形成**: 周辺の公共施設との連携を具体的に想定し、計画地のポテンシャルを活かした広域防災拠点を構築します。
- 地域で助け合う減災意識の醸成**: 日常的に避難所や備蓄所、災害時の行動方法等の防災情報を発信し、市民一人ひとりの防災意識を高めます。

2. 災害時にも自立機能する庁舎

- 速やかに施設転用するフェーズフリー計画A**: 平常時の庁舎機能とあわせて防災拠点・災害対策本部としての利用想定や機能を予め計画に反映し、災害時の素早い初動に対応します。
- 初動期から機能継続を可能とするバックアップB**: 大震災の経験を活かし、必要機能を予め想定した容量設定を行います。自然エネルギー活用やインフラ多重引込による長期間の機能維持可能な計画とします。

3. 大村湾の地震特性から導く免震庁舎

- 初動~災害タイムラインを支える免震構造**: 近年の震災では、建物は倒壊しなくても、内部機器の転倒や天井崩落等で業務継続に多大な影響を受けました。大地震直後から初動体制を確立し、災害対応のタイムラインを確実に支えます。
- 周辺地震環境に対応する「大村仕様」の免震**: 近傍の大村~諫早北西付近断層帯地震時に、計画地で生じる揺れを再現したオーダーメイド地震波を作成し、設計に反映します。
- ロングスパンでフレキシブルな構造計画**: 主架構は堅牢で耐久性の高いRC造とします。大空間を要する執務室はプレストレスト梁によるロングスパンの計画とし、フレキシブルゾーンを形成します。西側の市民活動スペースはサブ架構により軽快で自由な空間を形成します。諸室・コアのある四隅は耐震フレームを配し、空間構成に応じた最適な構造計画とします。

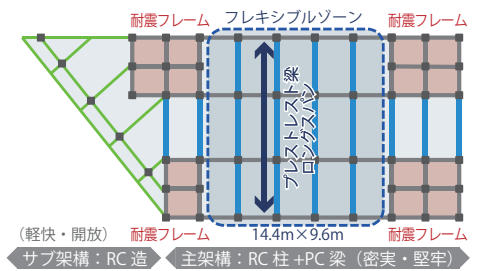
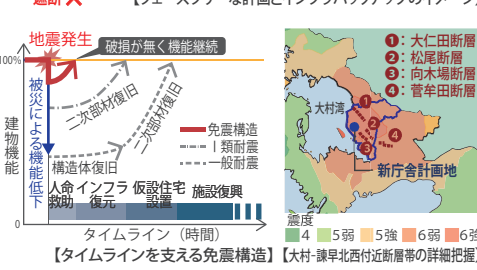
4. 台風や集中豪雨等あらゆる災害に強い庁舎

- 庇・ルーバーによる飛来物対策**: 軒の深い庇やルーバーが台風時など突風による飛来物から建物を守り、ガラス損傷・落下物等の被害を防ぎます。災害対策本部・市長室等の重要対策室窓面には雨戸を設置します。
- 万一に備えた浸水対策**: 重要設備機器は4階に設置します。マウンドアップや免震ピット擁壁立上により、万一の水害による免震層浸水への対策を行います。



経過	災害発生時	初期期	展開期	安定期	復旧期
災害発生	災害発生直後	約3日	約1週間	約2週間	約3ヶ月

フェーズフリー計画	フェーズフリー計画	フェーズフリー計画
災害対策本部(3F)	非常電源、非常照明、放送設備	災害対策本部(3F)
非常電源	非常照明	非常電源
非常照明	放送設備	非常照明
放送設備	非常電源	放送設備
非常電源	非常照明	非常電源
非常照明	放送設備	非常照明
放送設備	非常電源	放送設備
非常電源	非常照明	非常電源
非常照明	放送設備	非常照明
放送設備	非常電源	放送設備



低層・コンパクト・シンプルなローコスト庁舎

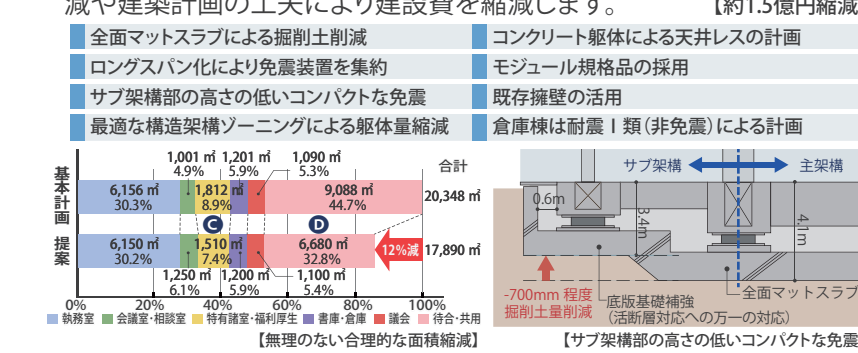
テーマ5 「基本計画」の基本方針「経済性を考慮した庁舎」の実現に向けた設計の考え方

	6階建案 (基準階案)	5階建案	4階建案
規模/高さ	6F/28.0m	5F/23.5m	4F/19.0m
ワンフロア面積	3,000㎡	1F: 4,350 2~5F: 3,340㎡	4,350㎡
コア面積	1,800㎡	1,500㎡ (-300㎡)	1,200㎡ (-600㎡)
外壁面積	6,440㎡	5,870㎡ (-570㎡)	5,450㎡ (-990㎡)
計画の特徴	市民窓口が2フロアにまたがる直通階段の構造強化が必要(避難階段) 連結送水管の設置が必要 基礎工事費の割合が合理的	市民窓口が1フロアで完結直通階段の構造強化が必要(避難階段) 連結送水管の設置が必要 基礎工事費が割高	市民窓口が1フロアで完結直通階段の設置 連結送水管の設置が不要 基礎工事費の割合が合理的
工事工期	±0	-0.5ヶ月	-1.0ヶ月
コスト差	±0	+0.1億円	-1.8億円

1. コンパクト庁舎による建設コストの縮減 約5.5億円縮減

- 低層化によるスリム化**: 市民窓口を1階に集約し、階数を低減することでコア面積と外壁面積を縮減します。【約1.8億円縮減】
- コア面積の縮減**: 階数を縮減したことにより、トイレ・階段・エレベーター・機械室・廊下に要する面積を縮減。【約600㎡縮減】
- 外壁面積の縮減**: 階数及び階高縮減により外壁面積の低減。【約990㎡縮減】
- 各室の面積縮減**: 豊富な庁舎設計実績や類似庁舎の面積分析より、機能性・快適性を担保し、無理なく面積縮減を図ります。【約2.2億円縮減】
- 休憩室等の縮減**: 執務室のマルチエリア内や共用部の各所に休憩スペースも兼ねたエリアを設け、他市事例も参考に面積を効率化。【約16%縮減】
- 待合・ロビー面積の縮減**: わかりやすく使いやすい中通路型の窓口レイアウトによる待合ロビーの集約化。大村モールにおける多目的な有効活用、廊下を共有する合理的なプランニング等により共用部面積を縮減。【約26%縮減】

2. 建築計画の合理化によるコスト縮減: 合理的構造計画による躯体量縮減や建築計画の工夫により建設費を縮減します。【約1.5億円縮減】

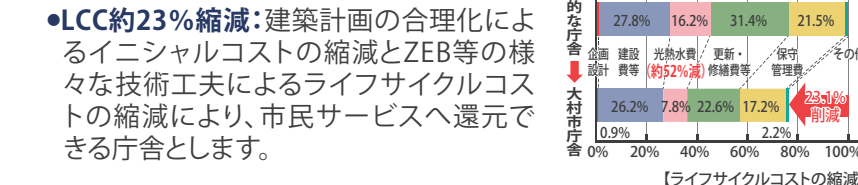


3. 確実な工事発注を実現: 工事発注の要件設定やコストシミュレーションを取入れた市況分析を提供し、予算に応じた適正規模の計画を行います。

2. 維持管理・修繕更新が容易な長寿命庁舎

- 点検・修繕・更新のしやすい計画**: 日常的な維持管理から長期的な修繕、更新まで様々なローコストメンテナンスを見越して計画を行います。
- 適切な塩害対策による長寿命化**: 塩害の影響を受けやすい立地のため、外装材には極力鋼材の露出を避け、使用材料の選定配慮や重耐塩設備機器を導入します。

3. ライフサイクルコストの縮減



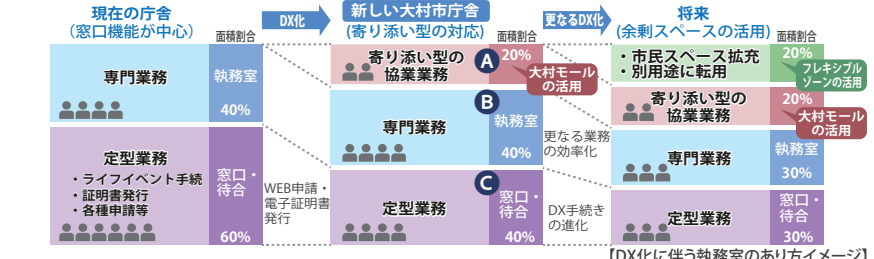
DX化とともに進化するウェルネス庁舎

テーマ6 「職員の業務効率の向上につながるオフィス環境」の実現に向けた設計の考え方



1. DX化による次世代サービスを実現する大村モール

- 市民と職員をつなぐ大村モール**: 市民一人ひとりから地域社会まで様々な課題を部署の垣根を超えてた職員とともにワンチームでオーダーメイドの答えを導き出す協業空間。
- 寄り添い型の市民サービス**: デジタル化により証明書発行やライフイベント手続きといった定型業務は電子手続・WEB化・AI化で合理化が図られるため、職員は1対1の相談にシフトした寄り添い型の対応に専念可能となります。



2. 職員が快適で効率良く働けるオフィス空間

- 機能的にゾーニングされたオフィスレイアウト**: 執務室のユニバーサルレイアウトに加え、マルチエリアD、ブレイクスルーコーナーEを配置して快適・効率的に働きやすい空間を計画します。
- フレキシブルなオフィス**: モジュール設計による無柱空間の計画とし、様々なオフィスレイアウトや将来の用途変更にも柔軟に対応可能な計画とします。
- 皆で共有する会議室**: クラウド型の予約システムと移動間仕切りにより利用目的に応じて可変する無駄のない会議室を計画します。

3. 市民も職員も健康的に利用できるウェルネス庁舎

- 利用者全ての生産性・満足度の向上**: 自然光・風・緑の取入れや、換気量調整、照明の調光・調色等の環境技術も活用し、利用者の心と身体の健康を満たす施設とします。庁舎初のWELL認証取得(計画実績有)も見据えます。

4. 市民と職員と共につくり上げる庁舎

- 大村市の想いをかたちにするワークショップ**: 設計初期段階のワークショップの実施により、市民と職員の双方の目線で「未来の新庁舎」を語り合うことで、より良い施設計画とします。